

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井博文



■ 歴史民俗資料館が活用されています

最近、歴史民俗資料館（以下「歴民」と言います。）の来館者が増えています。平成 21 年度は 2,593 人でしたが、翌 22 年度は 5,976 人と倍増し、平成 23 年度は 1 月末現在で 6,491 人と、既に昨年を超えています。

なぜだろうと思い、担当の学芸員に尋ねてみると、案の定、いろいろ工夫をしていました。平成 21 年度までは年 1 回、企画展を開催していましたが、平成 22 年度からは年 8 回程度に増やし、季節に応じた展示替えや講演会、稲こぎ体験教室などを開催しています。市民のみなさんからいただいたたくさんの貴重な資料が 30 年間、「歴民」3 階の収蔵庫に眠っていました。

その中からすぐにも見えそうな適当な資料を発掘しては、季節の展示品に使ったり、当時の写



▲日本の夏をテーマに展示

真も合わせて展示したりしていて、こちらも来館者の好評を博しているとか。「でも、ボランティアの協力なくしてはとてもできませんでした」とのこと。ボランティアのみなさん、「歴民」の運営について様々なご協力をいただいているとのこと。本当にありがとうございます。

来館者は小学生の社会見学と個人のリピーター（とても増えているそうです。）が主流。「産業観光バスツアー」のコースにも入っています。特筆すべきは、デイサービスからの来館者が増

えていることです。それぞれの施設の職員に引率されて、市内だけでなく、宇部市からもグループで



▲冬の道具展での一コマ

おいでになります。今年度は 4 月から 1 月末までで既に 115 件。普段はあまり喋らないおばあちゃん方が多弁になって、昔自分がどんなふうにかこの道具を使って働いたか、みなさんに語り出したり、歌を思い出してみんなで合唱したり、昔話に花が咲き、みなさん、とてもやさしい笑顔になって「ありがとう」と言って帰って行かれるそうです。「歴民」といえば、わが町の歴史民俗資料を保存し、学習の機会を提供することが主たる目的でしたが、こうした「高齢者福祉の面で僅かでもお役に立てるなら望外の喜びです。」（担当者）

今年で開館 30 周年を迎えます。みなさんもぜひ一度足をお運びください。

歴史民俗資料館開館 30 周年記念イベントを「さんようおのだトピックス」のコーナー（7 ページ）で紹介しています。

そちらもご覧ください。

対話の日

2 月 23 日(木) 19:00 ~
文化会館

3 月 22 日(木) 19:00 ~
高泊公民館